

子ども防災博士意見発表の部

最優秀賞 「わたしんちのたのもしい防災隊長」

岩出小学校 保田 天さん



私は、家族から防災について、いくつか、大切なことを聞きました。

一つは、考えること。

二つは、準備をすること。

三つは、訓練すること。

この三つの大切なことを私は「防災の心得」と呼ぶことにしました。私は、このことについて、よく考えてみることにしました。

一つ目の「考える」ですが、四年前の東日本大震災の映像や、ニュースを見て、あの時のことを思い出したり、自分がその立場に立って考えてみるということです。2011年3月11日、私は、学校から帰り、家でおやつを食べていたら、テレビをつけた母がとつ然、「なんか、えらいことになってるわ。」見ると、そこには、津波警報で真っ赤になった日本地図がありました。すぐに、何が起きているのか分からずに、とてもこわかったです。東日本大震災から四年経ちましたが、この「考える」ということは、あの日を忘れてはならないということにもなるのでしょうか。

二つ目の準備をすることですが、災害が起きた時、落ち着いて行動できるための準備です。私の家では、災害時に持ち出せるリュックが四つあります。大きいリュックが二つと、小さいリュックが二つです。私と兄のは、軽くて、父と母のは、少し重いです。二・三日分の水や食料は、倉庫に入れてあります。「あっ、地震だ」などと言って、パニックになっているときには、こういう準備はできないので、早くからしておく必要があると思います。

三つ目は、ひなん訓練をすることです。考えて、準備をしても、訓練をしていないと、それらは、意味のないものになってしまいます。ですから、私たち家族は、今、こんな訓練を考えています。

それは、うす暗い夕方に、家族四人は、それぞれ、公園や仕事場、また、家や帰宅途中で、大きな地震がやって来たと想定します。全員、けいたい電話を持たずに、決めたひなん場所に集まることができるかという、訓練です。学校での訓練は、先生や友達と、また、岩出市の訓練では、いつも家族といっしょです。だから、私たちは、あえて、一人のときを想定して、ひなん訓練をしようと考えたのです。六年生の女子にとっては、少し、怖い訓練です。でも、みんながやると言っているので勇気を出してやってみようと思います。本当に集まれるかきんちようします。

ところで、あの四つのリュックの中身なのですが、ちょっとビックリするものも入っていました。

まずは、ラップです。これは、すごく万能で、何重にもすると、強いです。物をまとめたりすることもできるし、骨折をした時の、ギプス代わりにもなります。また、寒いときには、保温にも使えます。さらに、お皿の上にしとく、お皿がよごれないので、洗わなくてもすみます。リュックには、このラップが三本も入っています。

次にウェットティッシュやトイレットペーパー、これらは、何でもふけて便利です。

最後に、水泳で使うゴーグルもありました。このゴーグルは、津波がやって来たとき、目につけて泳ぐためのものではありません。私は、テレビで見たことがあるのですが、大雨のときは、顔に向けて、シャワーをかけられているような強さの雨もふるそうです。こんな時は、目が開けられず、前が見えないそうです。だから、私と母は、リュックにゴーグルを用意しました。

その他には、大声が出せない時に使える、「ふえ」、「けいたい用トイレ」、「エコバック」も入っていました。母は、きっと、何でも入れられて、便利だと思って、このエコバッグも用意しているのだと思います。でも、これを、水を通さないがんじゃないなバッグに代えると、さらに、バケツの役割もしてくれると思います。

いろいろな物が入っている、このリュックは、災害がおきた時に守ってくれる、「小さな防災隊長」です。

このように、考えたり、準備したりしていると、不安がなくなって来たように感じます。

私は、防災隊長がいることで、安心していただけるけど、隊長が活やくしてしまう日が、来てほしくないと願っています。

